

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年4月5日

事業所名 ジョイジョイ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	1階と2階に分かれて学習を行い、必要に応じて教会のスペースも活用している。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	50%	50%	施設内に階段がある。段差ができる部分は、マットを敷く等の対応を行っている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	88%	13%	常勤・非常勤で差があると感じるため、時間を設けてより多くの職員で共通認識が持てるようにしたい。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	88%	13%	昨年度、指摘があった緊急時マニュアル等の提示が出来なかった。	4月はじまりの時にお知らせする予定である
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	86%	14%	第三者の評価を見たことがない。	法人本部の役員会に対しては毎月報告している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	外部講師による講演会や事業所内研修を定期的に開催している。今後より多様な研修の実施ができれば良い。	職員のニーズや事業所のニーズに応じて適切な講師からの研修を検討したい
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	71%	29%	発達検査の結果を使用している(WISC等) 児童発達にはアセスメントツールがあるが、放課後デイでは使用できていない。	個別のアセスメントを利用しているが、標準化されたものの比較できるようにしたい
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	長期休暇の時は、お出かけや買物体験、制作など平日に出来ない支援計画を立てて行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	普段の担当別の個別活動に加え、全員参加する遊びなども適宜取り入れている。	
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎回、開始前にその日の出勤者全員でミーティングを行い、祈って始めている。送迎・出勤時間の兼ね合いで、全職員では出来ないため、情報共有の工夫をしたい。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	78%	22%	問題点や気になることは、その日のうちに情報共有し、振り返りを行っている。 日誌を活用し、必要に応じて振り返りや情報共有をする。 勤務時間が異なるため、その日の振り返りは難しく、後日共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	89%	11%	短い時間の中で限界があるが、努力している。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	担当者が同席するよう努めている。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	89%	11%	公式LINEを開設したことで、以前よりも保護者との情報共有が円滑になった。 下校時間の変更等の連絡がないことがあるため、事業所からも必要に応じて確認を行う。 ホームページや保護者を通じてが主だったが、トラブル時は、先生方と相談・連絡している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	88%	13%	保護者の希望に応じ、必要があれば情報提供を行っている。 保護者から話を聞いている。児童発達から利用していた児童に関しては、事業所内で引継ぎしている。 児童発達から利用されている方は情報共有できるが、新規利用の方は、保護者を通じての情報共有になった。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	相談員を通して行う場合もある。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	75%	25%	助言や研修の機会が増えると良い。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	38%	63%	運営母体である教会での子ども向けイベントの案内を積極的に行い、参加している子どももいる。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	86%	14%	定期的に行われる事業所交流会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	低学年の保護者対象にペアレント・トレーニングを実施した。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	88%	13%	クリスマス会やコンサートなどイベントを開催し、保護者同士の連携ができる場を提供している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	年2回会報を発行している。行事予定等は個別の支援計画でお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	個人が特定されないように十分注意されているが、個人名の入った書類の破棄は、シュレッダーを利用するように促す。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	保護者とは、公式LINEを用いて情報共有が密にできた。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	63%	38%	運営母体である教会が開催するイベントに地域の方を案内し、多くの方に来て頂いている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	89%	11%	保護者には契約時以外では周知できなかった。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	長期休みの都度、避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	外部研修、第三者を交えての虐待防止委員会を持っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	75%	25%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		